授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　東中学校　野谷　康雄

【単元名】　数学　第５章「平面図形」　１節「図形の移動」（第１学年）

【指導のポイント】

　　前時までの４時間で平行移動、回転移動、対称移動の３種類の作図をワークシートを使って学習

している。この４時間は、ことばから方法をイメージし、コンパスや三角定規を使って作図をする

というという展開を繰り返し行った。

　「論理的な文章を書く力を高める」ために本時は、その逆の段取りで、出来上がっている移動の

図を見て、移動のイメージを伝えるために、細部にこだわった文章にまとめることをポイントに

した。

【学習の流れ】

１．「右の図の△ABCを△A’B’C’に重ね合わせるには、どのように

　　　移動させれば良いですか・という発問について考える。

B’

A

２．既習事項の平行移動・回転移動・対称移動の3種類の特徴を

　　考慮して、どういう移動かを考える。

　　多くの生徒は3種類の中から1つを選び考える。

C’

A’

C

B

３．机間巡視をしながら生徒の考え方を、教師が把握する。

《生徒解答例》

　　①点Cを回転の中心として回転し、右へ平行移動する。

　　　→「回転の方向と、回転の角度が説明されていない」と追加質問をし、生徒が補足。

　　　→「時計回りに90°」

　　②「線分CC’の中点を回転の中心に時計回りに90°回転させる」

　　　→これが難しいポイントで、これでは、点Bが一致しないことを説明。

　　　→線分CC’の中点の1目盛り下の点を中心にするとうまくできることを発見。

４．図形は、まずイメージを持つこと、その後にそれを具体的に確かめることが大切。

　　というまとめを教師側が行う。

【振り返り】

　　数学は、得手不得手の差が大きい教科なので、生徒同士の学び合いを心掛けている。

その一例として、文章を読んで問いに合う答えをすることや、長めの文章理解を苦手とする生徒

　の為に、まず生徒に文章を読ませ、教師が読むことは第1段階では行わず、少し読み取る時間を

与えてから、教師が読むことや、手助けを最小限に留め、うまくできないとき、生徒同士の学び

合いを意識することで、教える生徒も教えられる生徒も理解が深まることを教師も再認識した。

　また、内容を正確に伝えることのポイントを、自分の説明は自分より年下の人に教えるつもり

で丁寧に書く。ということをこれからも伝えていこうと思います。